

山椒は小粒でも...

Vol.17

10月4日はとーしの日。



10月4日
答志の日に答志島で『答志島トロさわら』宣言を行いました。



県庁での報告会の様子。
鈴木知事の太鼓判をいただいた答志島トロさわら。

さわらは魚へんに春と書き、九州や瀬戸内を中心に一般的には春が旬の魚というイメージがあるかと思いますが、伊勢湾では本当に味が良いのは10月から1月にかけてです。答志島近海のさわらは脂が乗って良質なたんぱく質を多く含んでいます。その味わいは、中トロのようで格別においしく、鳥羽は『さわら』を刺し身で食べる事ができる貴重な地域なのです。

答志島トロさわら



主なブランド化の条件

- 答志島、菅島内の漁協4支所で水揚げされたもの
- サイズが2.1~4.7kgであること
- 一本釣り漁法で、船上で活メされたもの
- 3日連続で脂肪含量が平均して10%を超えること

漁業と観光の連携事業の一環で市内の43のお店で取り扱いはじめました。今後は伊勢志摩地域全体で、100店舗で食べることができるよう目標を定めたところです。さあ、みなさん、まずはどこで食べますか？

「おいしいかがですか？」と質問すると「メッチャおいしいです！」って。いつも取材される側の私からするととっと気の利いた感想はないのか、とツツコミを入れたくなりましたが、彼らのこの「食感触」が大事！この舌による取材が功を奏してニュースの時間枠が何秒か広がったことと思います。



報道関係者も「おいしい！」と舌鼓を打ちました。



Vol.174

市民課人権・生活係 ☎ 1126

駅ホームの安全確保に向けた取り組み

内閣府は、平成30年版交通安全白書で鉄道交通事故などの状況を公表しています。

平成29年の人身傷害事故は381件で、死者数は186人でした。このうちホームからの転落、またはホーム上で列車と接触して死傷する事故(ホーム事故)は178件で、前年よりも減少していますが、ホーム事故による死者数は30人と前年より6人増加しています。

鉄道交通事故は長期的には減少傾向にありますが、ホーム事故は依然として発生しています。その中には、視覚障がい者のかたが犠牲になる事例もあつたことから、転落事故防止対策の必要性が高まり、平成23年に「ホームドアの整備促進等に関する検討委員会」が、平成28年には「駅ホームにおける

安全向上のための委員会が設置され、ハード・ソフト両面から総合的な安全対策の検討が行われています。

ハード面では、1日当たりの平均利用者1万人以上の駅において、転落事故などの総事故件数の約8割が発生していることから、利用者1万人以上の駅には、内方線付き点状ブロックなどの整備を、平均利用者10万人以上の駅には、ホームドアまたは内方線付き点状ブロックを優先的に整備するよう進められています。

ソフト面では、「心のバリアフリー」の取り組みとして、鉄道係員などに対するバリアフリー教育・研修などの実施、旅客による視覚障がい者への声掛け・見守り、および駅に関する情報提供などを行っています。

駅を利用する誰もが、安心して利用してもらうためには、ハード・ソフト両面が整備されていることが理想ですが、そのような駅ばかりではありません。わたしたちができることは駅で視覚障がい者のかたやホームから転落しそうなかたを見かけた場合、ためらわず声を掛けることです。その行動が事故防止と尊い命を救うことにつながります。